

平成25年度「みえの現場・すごいやんかトーク」（鳥羽市）の概要

6月21日（金）に鳥羽市の国崎で「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「くざき^{あわび} 研究会・おべんの皆さん」の関係者の皆さん8名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- 国崎も少子・高齢化で子どもの数も少なく、小学校も閉校になった。何かをしなければいけないという気持ちになり、町おこしのために、この8人が寄って考えた。何かをするには、国崎の有名な鎧崎の干しあわびを使って、廃材、使われないものを利用して考えようではないかと試行錯誤でやってきた。平成23年より、県の支援センターより支援していただいて、東海5県ぐらい売りに行った。やっと、名前が知れるようになり、企業組合を立ち上げることになった。7月1日は地元では、「おべん」さんのおまつりであり、この日からスタートすることになった。
- 地元で魚の商売をしている。おべんの会の副会長をさせてもらっている。2～3年目になるが、四苦八苦している。市役所の方には色々協力いただいている。お世話になりっぱなしだ。
- いろんなことが好きなものばかりが集まり、会を結成する時に会長から誘われた。私も今年、還暦を迎える。本当なら今年で退職でこの会のこと集中できるのだ

か、まだ再任用で勤めている。陰ながら、仲良く、今後も協力したいと思っている。

仕事は大工をやっている。家族は7人いる。町内会の役員を通じて、のしあわびなどをやるようになった。自分の子どもがよそへ行くようになって思うに、地元で若い人が生活できるようになれば、そんなことを考え役に立てたらと思う。この会に関わらせていただいたのは、この地方は人口が減少しているので、若い人が、少しでもここに留まっただき、働ける場所がないか、何か考えられないかと、皆さんとこういう会を作るということになったので参加させていただいた。

地元の鳥羽磯部漁協国崎支所に勤めている。あわびを採る元気な海女さんと毎日話をしている。現場で一喜一憂している。何とか、海女の後継者と国崎のあわびがもっと増えるように頑張りたいと思っている。

地元で漁師をやっている。奥田会長があわびの話をする前から、国崎に会社が出来て若い人の働ける場所ができたかなと思っていた。そしたら会長からそんな話があり、お誘いがあり仲間に入れてもらっている。

活動をして一番良かったことは、色んな人と知り合えたことである。知事さんとこうやってお話しできることはまずないであろう。大学の教授さんたちと知り合いになれたこともお金には代えられないことである。奥さんには怒られてばかりいる。今まで大変なことはいろいろあったけど、協力してきた。4年近く続けられ、夢が持てている。ものすごい夢は最後に言う。

今はたくさんの商品ができています。一番最初は何を作るか、何をするかわからない状態であった。みんなで話し合っこのような商品が出来上がってきた。何も無いところからこの商品が出来上がったことが、私は一番嬉しい。これからどんどん増やしていけたらと思う。自分としてもやりがいがある。

「あわびステーキ」で進化して、この状態になった。「米の粉で作ったベーメン」も作った。あわびを粉末にして、麺に練りこんだベーメンを作った。岐阜の会社の協力を得て作った。あわびの甘露煮・きももある。渡辺明教授と知り合いになり、指導いただき材料を粉末にする技術、燻製にするなど、マイナス31度で冷凍するなど、新しい技術を入れたほうがいいよと言われたのが最初である。粉末・燻製の中で、このような商品を作り、大きな会社とコラボさせてもらったりしたが、冷凍食品を買ってくれる人が少なかった。常温の商品が好まれることが解った。みんなで考え、常温の商品を考えた。

「きも」はのしあわびでは必ずでるもの。私たちは「きも」のおいしさが解るが、普通の人にはおいしさを知らない。これを確実に商品化するにはどうしたらいいのか。また、どうアピールしていけばいいのか。そういふような考えの方向性はいいかなと思っている。山梨では、武田信玄の時から「あわび」や「きも」などの商品を作って贈答品などに使っていた。南アルプス市にここのアワビを持って販売しに行った。不思議とよく売れる。岐阜の恵那では、まったく売れない。信玄あわびが有名で、山梨ではあわびの消費も高い。

南アルプス市では、あわびの消費は高い。昔、武田信玄がけがをしたとき、あわびを献上したらすぐ治り、戦いにすぐ出られたという逸話がある。

町がもっと発展して、この町に人が戻ってくるといいと思っている。贈答用のあわびを漁連のパンフに乗せてもらった。お中元など贈答の機会が増えた。誠にありがたい話である。のしを付けて、北勢の方では良く売れている。

企業に任せると私たちには利益が少ない。世間で言われている6次産業化の支援をしてほしい。海女さんは年間160日労働するだけ、その他の日で空いている人が、私たちが立ち上げる会社で雇用する。大規模なものではなく5~6人程度雇用するような会社を設立したいと考えている。そうゆう起業できるお話があれば教えてほしい。

2.5cm~3.0cmのあわびの稚貝を種苗センターより養殖のために購入している。貝が小さいと色んなさかなに食べられてしまう。0.3パーセントくらいしか回収(大きく)できない。あと一年その大きさ5cmまで育ててくれたら、80パーセントまで上がる。そういうところを、個人、組織ではなくて民間に委託してくれることはできないかと思っている。データの的に私たちの会は持っているのでは是非お願いしたい。餌も試行錯誤している。「あらめ」だけではなく2mの青森の「昆布」を与えたりしている。今年から試験的にやっている。成長を記録している。昆布を食べさせらどれだけになったなど、データを集めている。あわびの食べる量は非常に多い。

この会場の下にあわびを養殖している海がある。禁漁区であるが、そこには投石して、3か所のエリアを定め、1年目のあわびを放流している場所がある。知事が今いう、特区として認めていただき支援いただきたい。海女を守っていこうとした思い切ったことをやらなければならない。自分らの職場でもある。自分たちが管理していく。ヒトデがあわびの天敵である。水産研究所の方に潜っていただいたが、投石の石が少ないこともわかった。

昔は海女さんが取る量が決められた。40トン規制があり、それで打ち切られた。昨今は1トンそこそこである。5~6年前から県・国の支援を受けて7万個放流していた。それも3パーセントから5パーセント生存率であった。とても低い数字である。あわびが増えてこない。

旅館組合とも話しているが、後継者がいない。嫁さんもこない。葬式は多いが結婚式はない。それと伊勢二見鳥羽ラインの無料化を進めてほしい。若者もいなくなるし、商売のための借金もできない。悪循環である。漁師をしていても、ものは取れないし、値段も安い。厳しい一面がある。何かを考えないと生き残れない。婚活みたいなものをどんどんやってほしい。

伊勢二見鳥羽ラインのETC化はどうか。あそこで、コインを出すことが面倒なので期待している。

JAとして国崎から、志摩の「きんこ」、どこにも負けない芋を昨年からつくり始めた。「人参芋」とも言われた芋であるが、「元禄人参芋」とかインターネットで調べるとそんなことも記載あるが、芋の歴史とか、DNA的なものが解るものが、あれば教えていただきたい。ずっと種芋、種芋できているが、もともとの成分とかを知りたい。とにかく甘い芋で、砂糖は入っていない。

鳥羽や志摩にお客さんがみえて、釣り堀じゃないけど、水族館、スペイン村だけではなく、何かまちを生かした国崎独自のレジャー施設ができればと思う。家族

連れが来て時間も余すことなく過ごせると思う。

9月15日を過ぎると、あわびが採れなくなる。国崎は伊勢神宮に生あわびを奉納しなければいけない。前は県が、特別採捕で取らせてくれた。今は全然採らせてくれない。何回か頼んだが採らせてくれない。1000個単位であわびがいる。禁漁区が国崎に作ってある、そこでなんとかちょっとでも採れないか。県の条例で定めている。特別採捕で何とか採れないか。何年ぐらい前から採れないのかは解らない。10～20年前からか。詳しくは解らない。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

開発した商品（あわびステーキ・あわびのきもの佃煮等）が岐阜県恵那市では売れなかったが山梨では売れたという話はとても興味深いし、その発見はおもしろいと思う。

海女さんを活用した6次産業化の支援、会社設立の話であるが、若者が地域に帰ってくる会社にするイメージでいいのか。6次産業化の会社の設立の話は水産業を含めた農商工連携みたいなもののファンド、基金みたいなものとか、農林水産支援センターでも活用いただいているかもしれないが、アドバイスができるようなものであるので、具体的に相談していただいたらやれると思う。お金の申請の仕方とか、会社を設立するにはどういう問題があるかとか、会社をやるぞとみなさんが腹をくくってやってほしい。企業組合から発展させて、アドバイス、ファンドのお金使い方などで相談できると思うので言っていただければよい。

あわびの幼貝で3cmの状態から5cmの状態になるまでを、民間とかにお願いできないかという話であるが、種苗センターから買い付けた3cmのあわびでは大きくなる確率が非常に小さくてあわびの放流（養殖）は5cmが良いというお話をお聞きした。技術的なことがよくわからないので、規制とかルールがよくわからないので、今すぐにお答えが難しいので、国崎に来た宿題として、県に持って帰って、こういう考え方ですというのをちゃんと会長さんに返答させていただくことにする。

地元では地域であわびを守るための禁漁区を設けて、資源管理をしていると聞いていた。特区としてここを県として認めていただきたいとお話であるが、あわびが着床しない理由など、技術的なことの問題点は解らない。県としても調べてみる。また、海女さんは三重県でも宝であると思っている。ユネスコの無形文化遺産に向けて、スタートしたが、知事になってわかったことは県の文化財にもなっていなかったことである。県の文化財指定は今年度中にできるよう頑張る。次は国の無形文化財にと、国も今の状態で調査いただいている。悪い話ではないと思っているし、また、NHKの海女さんのドラマもやっているの、情報発信にはチャンスである。全国的な海女サミットを今年は輪島でやっている。石川県の知事とも話しているの海女さんを守っていく機運を高めながら、海女さんの応援をしていきたい。

旅館の後継者がいない現状をお聞きして、若者世代が定着できるように、県でも南部地域活性化局で一生懸命考えている。南部地域活性化局の取組を活用いただき、

婚活をどんどんやりたいと思う。

全国的にも、内閣府の少子化対策の委員をやっているが、鳥羽市の婚活の状況なども説明させていただいている。婚活には、全国的に女性の参加率は高いが男性はあまり出てこない。みなさんも地元の男性たちに、参加を促していただくとありがたい。高知県の知事も婚活に力を入れている。大蔵省出身者で、国から見たら、婚活事業は無駄な事業だと思っていたが、高知県知事になったらこんなに大事な事業なんだと思ったと言っていた。県庁で婚活なんかやる必要があるのかと言う人もいるが、僕はやらないいけないと思っている。県ではポータルサイトを作っている。

伊勢二見鳥羽ラインの無料化は難しいと考える。無料化にあたって、地元の人がどういう経路を使って動いているのか、色々な調査を過去にやったが、無料化はすぐにはできない。E T Cも設置するのに数億円かかる。全体的なシステムを組み入れるのでかなり費用がかかる。県だけではなく、他の周辺市の分担とかも考えなければいけない。すぐは難しいかもしれないし、無料化よりはE T Cのがまだ近いかもしれない。

志摩の「きんこ」のお話を聞かせていただいたが、成分とかルーツなど農業研究所あたりで、すぐ解るんじゃないかな。聞いてみる。どうゆう成り立ちか、成分の評価をするのか。成分検査とか、機能性評価はできるはずなので、しかしタダではないと思う。一定の検査料みたいなものは払っていただくと思う。

検査の結果、実はビタミンがほうれんそうの何倍とかだったらすごく良いと思う。県がいきなり、観光施設等を整備するのはむずかしいと思うが、こちらへ来てもらえる「仕組み」、県では観光キャンペーンを実施しており、周遊してもらえるようなPRを展開している。第二伊勢道路の開通や国崎に回ってもらう「仕組み」はちゃんと考えたいと思う。

昔から禁漁区が国崎に作っており、そこでなんとか特別採捕で採れないかというお話であるが、古い話でもあり、県の条例で定めていると思うので調べてみる。特別採捕を禁止した経緯は今は解らないので調べて回答する。



【くざき鰻研究会・おべんの皆さんとは】

過疎化が進む国崎を少しでも活性化するため、名産の「あわび」を養殖し、全国区のブランドにする目的で、2010年2月に、サラリーマン、漁協職員、漁師、旅館経営者、大工8人が集まって、会を結成しました。「あわび」を使った新メニュー開発なども行い、地域を潤す商品を生み出している皆さんです。